

耳鼻咽喉科だより

TOPICS

めまいで困っていませんか？



めまいには、小脳や脳の異常から生じる中枢性めまいと、耳の平衡感覚器（前庭）の異常からくる末梢性めまいがあります。全原因別でも最も多いのが後者に分類される「良性発作性頭位めまい症」で、耳石と呼ばれるごく小さな内耳中の石が、頭の位置を変えたタイミングで外れ、三半規管の中で浮遊することからめまいが生じると考えられています。1回1回のめまいの長さは数十秒程度ですが、頭を動かす度に繰り返し起こり、患者さんを悩ませます。

耳鼻咽喉科では、赤外線CCDカメラを使ってわずかな眼振（めまいの兆候）を見逃さない診察を行ったりしていますので、めまいでお悩みの患者さんはお気軽にご相談ください。

60歳を過ぎたら年1回の聴力、のどのチェックを

最近、耳鳴りがする、人の言葉が聞き取りにくい、錠剤の吞み込みが下手になった、声がかすれてきたなどの症状がないでしょうか。加齢とともに、聴力低下や嚥下機能低下が生じやすくなりますが、喉頭腫瘍などの病気が隠れていることもあります。聴力低下は検査で初めて気づくこともあります。ぜひ60歳を過ぎたら、耳鼻科チェックを受けられることをお勧めいたします。



当院耳鼻咽喉科は東海大学病院耳鼻咽喉科の医師が担当しています。大学病院に行かずに、診察が気軽に受けられますのでお気軽にご相談ください。



ヘルニア外来の開設

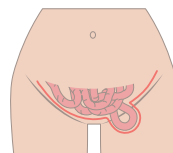


“ヘルニア”とは本来あるべきものが外に飛び出してしまう状態の総称で、軟骨が飛び出し神経圧迫する整形外科的な、腰や首の“椎間板ヘルニア”で、一般に認知されています。

一方、お腹の壁に穴が開き内臓が外に飛び出る、いわゆる“脱腸(だっちょう)”も、じゃない方のヘルニアとして重要です。そけい部（脚の付け根）やお臍（へそ）、手術後の傷のふくらみ、痛み、違和感などで気づくことが多く、無症状の場合もあります。ときに嵌頓（臓器が穴に入り込み、腐りかかる状態）を来した場合、緊急処置が必要になります。この病気は経過観察や投薬で治す事が出来ず、手術が唯一の治療法です。手術には皮膚を大きく切って治す前方到達法と

おへそからカメラを入れて治す腹腔鏡手術（後方到達法）とがあり、個々の患者様の病状、既往症、麻酔法の選択などにより術式を決定します。手術前日に入院、手術日、退院まで約3泊4日が基本設定です。退院後の術後経過観察も重要で、患者様の不安に寄り添う診療を心掛けております。

当科では日本内視鏡外科学会(JSES)技術認定資格を取得した外科医師を中心にさらなるきめ細やかな診療にあたるため、令和6年9月より“ヘルニア外来”を開設（第1、3土曜日午前）、地域住民の皆様のご健康に寄与出来る病院を目指しております。あれ？だっちょう？と思ったら、お気軽に当院ヘルニア外来へお声がけください。よろしく願い申し上げます。 外科 田澤 賢一



とうめい厚木クリニック

〒243-0034 厚木市船子237

TEL.046-229-3377 FAX.046-229-1935

<https://www.tomei.or.jp/clinic/>

予約・お問合せ電話番号

☎ 046-229-1950